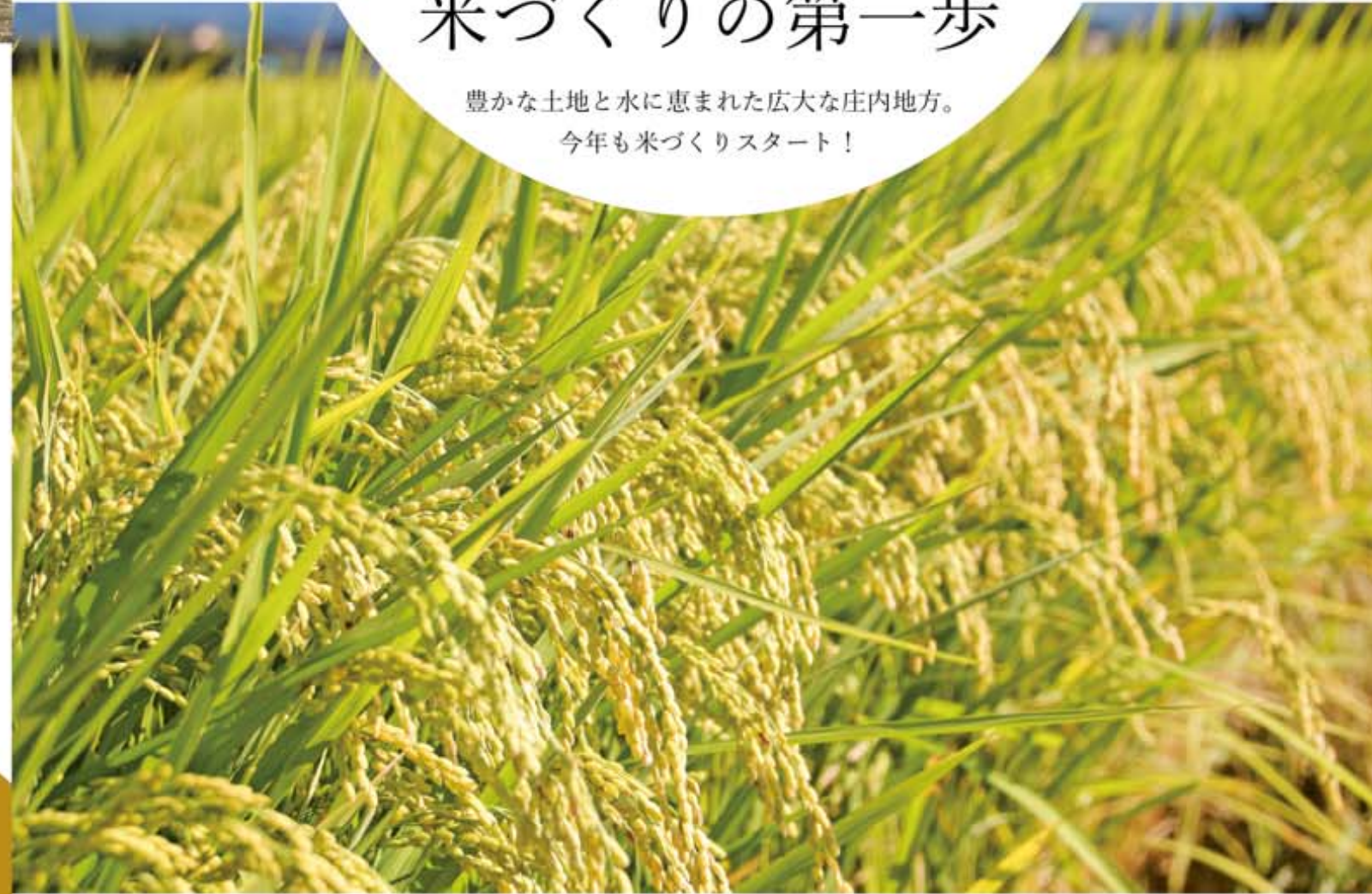




# さあ、今年も始めよう 米づくりの第一歩

豊かな土地と水に恵まれた広大な庄内地方。  
今年も米づくりスタート！



## 2021年も ブランド米を確立！

2021年1月には各支所で「つや姫栽培技術研修会」が開かれました。県産米「つや姫」の栽培認定者を対象とした同研修会では、昨年の作況を振り返り課題を発見することで栽培技術の底上げを図り、より高品質な「つや姫」の生産を目指しています。

管内の20年産米は、全品種平均で一等米比率が98・5%を記録し、前年産を2・2%上回りました。特に、「雪若丸」は1等米比率99・5%、「つや姫」は99・2%と品種間においても、高品質の結果となりました。また、山形県全体では94・5%と、初の全国1位に輝きました。(20年12月31日現在)

J Aでは、山形県のスリーブランドである「つや姫」「雪若丸」「はえぬぎ」を柱に、庄内たがわ産米のブランド確立を目指しています。今年産は、つや姫約2200畝、雪若丸約650畝、はえぬぎ4300畝を作付見込み面積とし、高品質・良食味の安定生産に向けた栽培技術指導と、販売情勢を見据えた品種誘導に尽力していきます。

産直め農マルシェ

こちらを  
CHECK!

### オンラインショップ

管内の主力米「つや姫」「はえぬぎ」などを販売中!



## 種まき作業に向けた 事前準備は念入りに！

厳しい冬を越え、今年もいよいよ稲作が始まります。3月に入り雪解けが進むと、田んぼや育苗ハウスの準備と点検、種まき作業に向けた水稻種子の温湯消毒などが管内で行われます。

楡引地域のJ A水稻育苗施設では、温湯消毒が3月上旬からスタート。消毒後は、種籾に水分を吸収させる浸種を2〜3週間行い、発芽のタイミングや成長速度を揃えるため催芽処理を実施します。そして、種まき作業に向け、4月に生産者へ水稻種子が渡されます。



種子を60°Cの湯で10分間消毒した後、冷水に浸します。

3月

種子消毒  
育苗ハウス準備  
圃場準備

4月

種まき  
田起こし  
育苗巡回  
etc.



庄内町

高橋 隆さん

水稻作付面積：10ヘクタール

だし風の強い地域ですが、粘土質な土壌のため保肥力が高く、高品質な米に育ちます。全作付面積での土壌改良剤を使用した土づくりに力を入れ、誰が食べても美味しいと言われるようなお米を作りたいです。



楡引地域

鈴木 仁さん

水稻作付面積：16ヘクタール

私の地域は砂壤土で生育が早まる傾向にあるため、毎年収穫適期を見逃さないよう努めています。「田んぼの足跡の数だけ結果がついてくる」をモットーに、雪が解けてからは毎日のように田んぼへ出向き、高品質でおいしいお米を生産していきます。



羽黒地域

丸山 良治さん

水稻作付面積：5ヘクタール

私のつや姫の圃場に流れてくる水は夏でも水温が低いため、稲は猛暑に負けず順調に生育が進みます。苗の活着を良くする肥料や、高品質米を作るためにリン酸を含んだ肥料を使用するなど、品質を追求した土づくりに努めています。